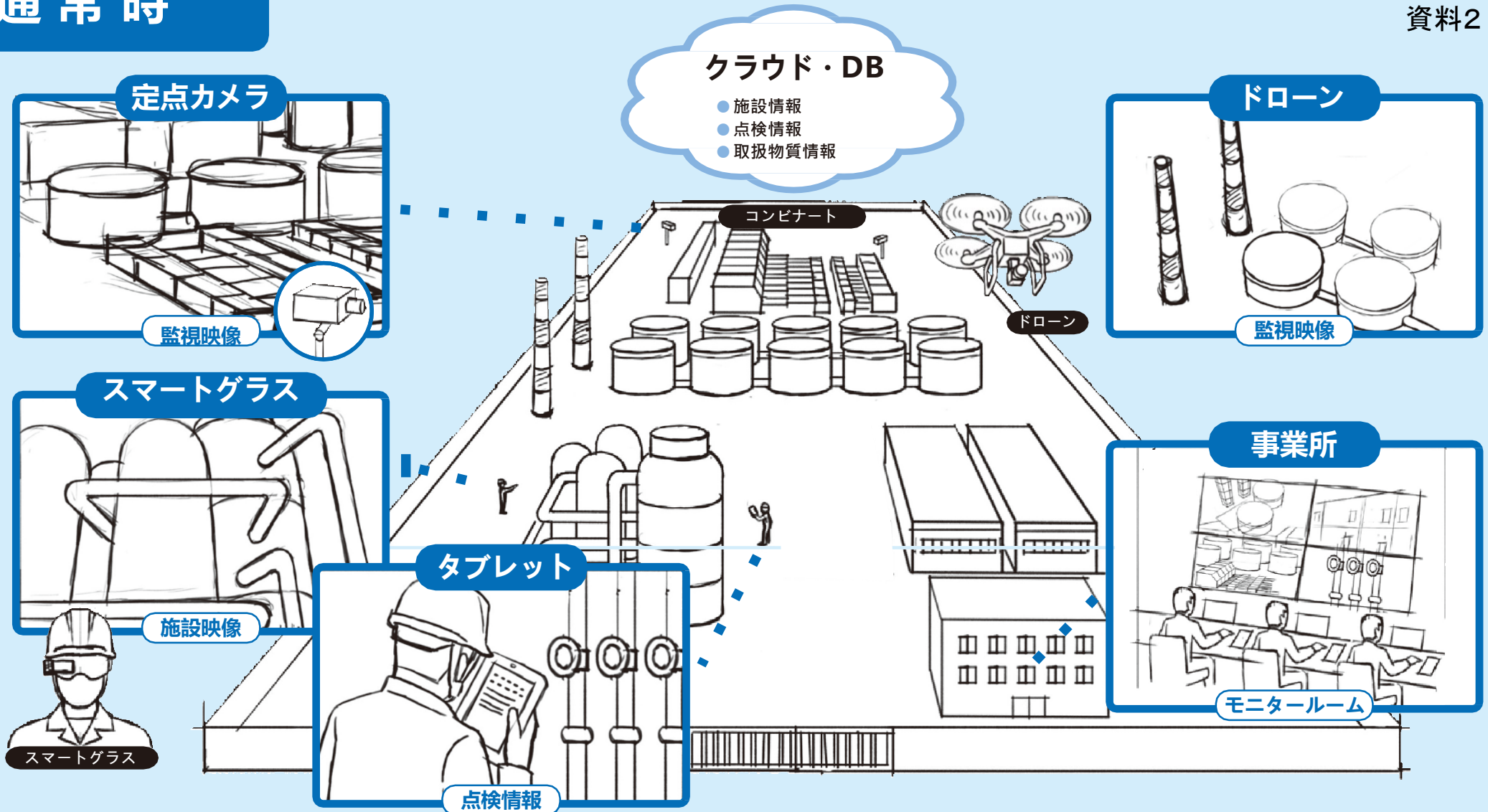
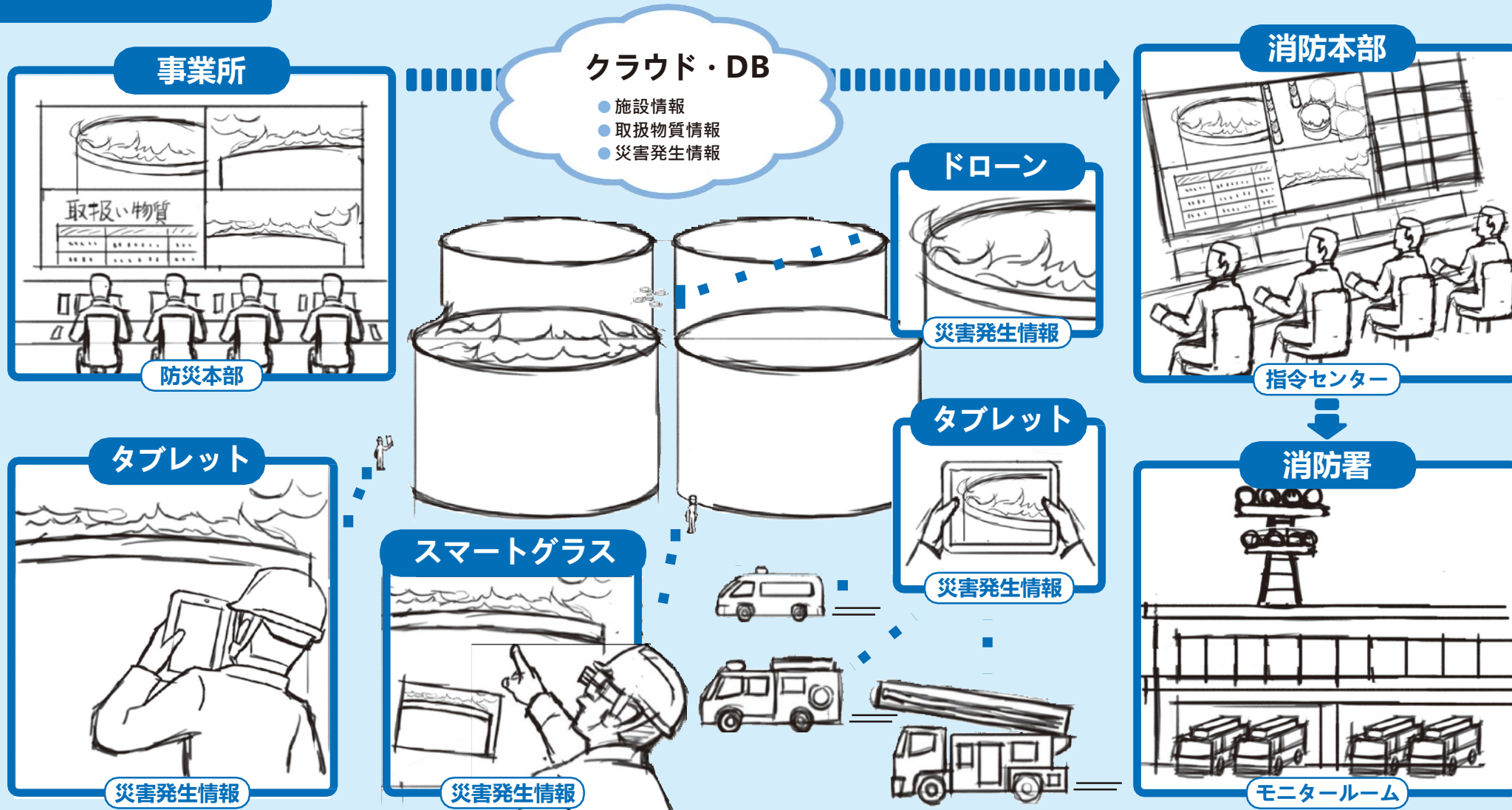


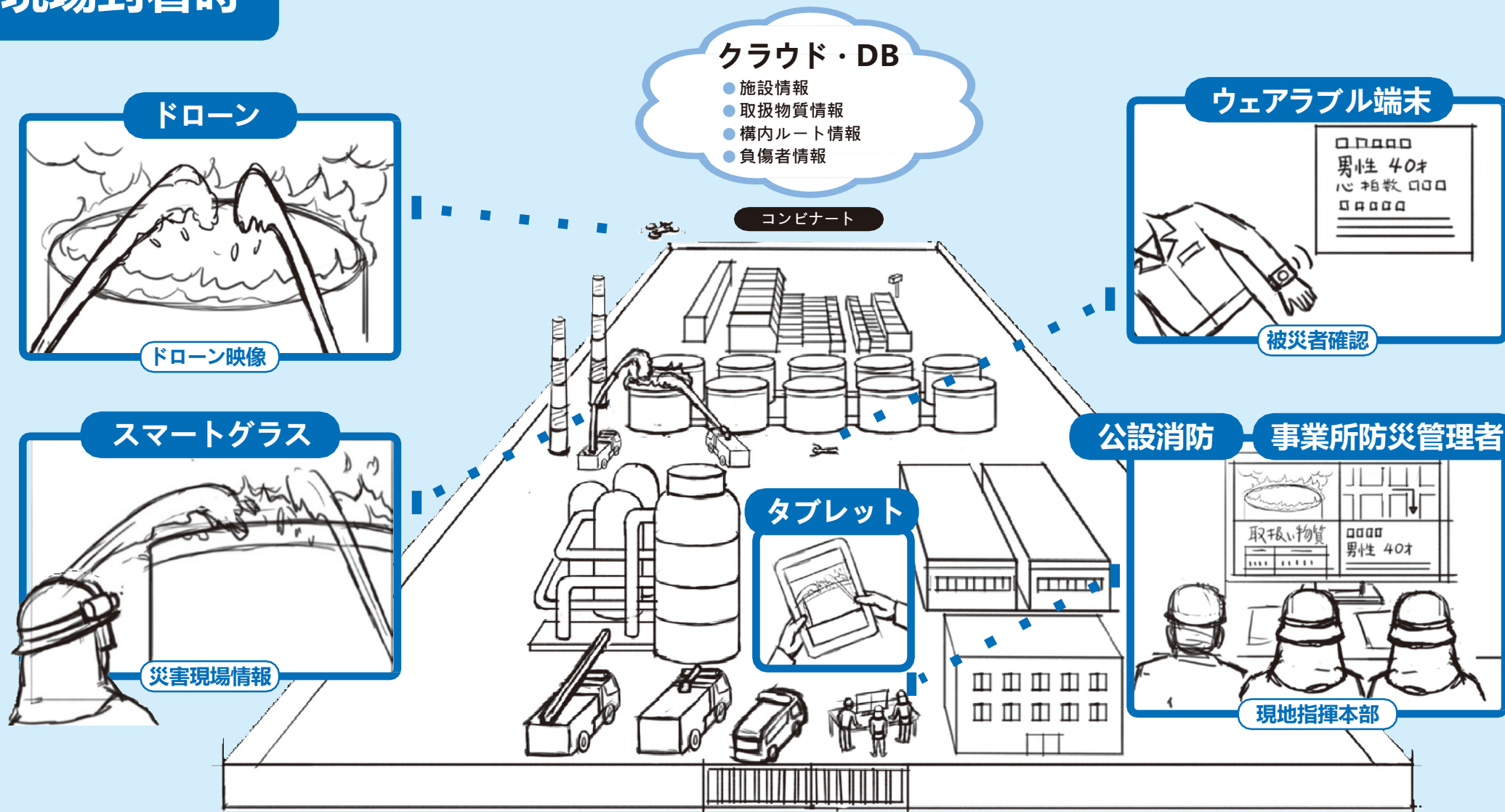


- ・ドローン、タブレット、スマートグラス、定点カメラ等のさまざまなIoTデバイスからの点検データ等がクラウドに蓄積される。
- ・映像はモニタールームにリアルタイムで送信される。
- ・異常があった場合は、IoTデバイスを通じてリアルタイム映像をモニタールームへ送信でき、必要な指示が受けられる。



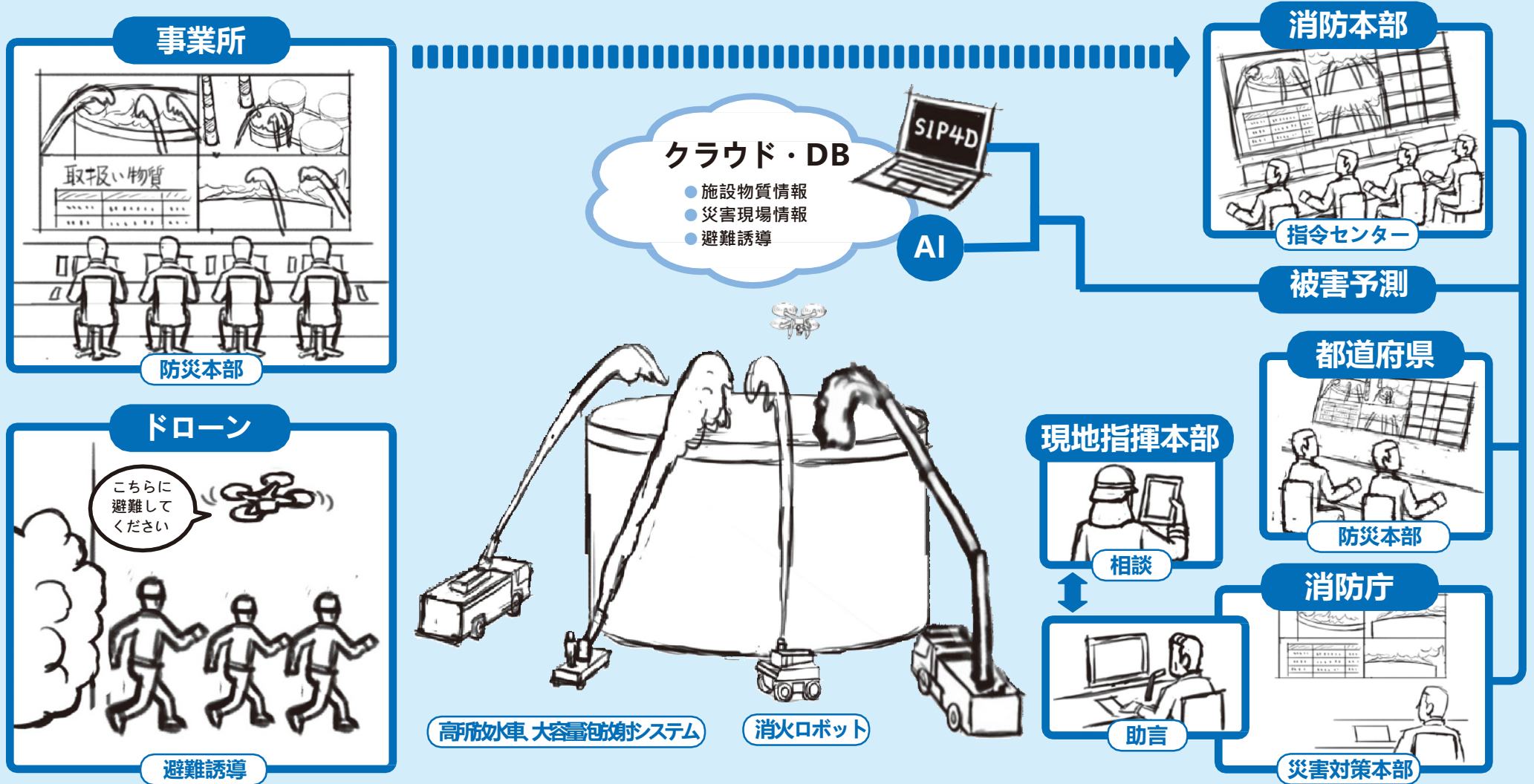
- ・通報と同時にクラウド上の各種情報が消防本部と共有される。
- ・消防署からの出動車両に積載したタブレットでも同じ情報が共有される。

現場到着時



- ・現地指揮本部に設置されたモニターで、事業所とさらに情報共有できる。
- ・ドローンからの俯瞰映像により、現場への安全なルートが提示される。
- ・負傷者が装着したウェアラブル端末から生体反応や位置情報が送信される。

災害対応時



- ・リアルタイムな情報が、都道府県、消防庁、SIP4Dにも共有される。
- ・AIが有害物質の拡大予測などを行い、避難の判断を支援する。
- ・リアルタイム映像を共有しながら、専門家が現場へ具体的な助言を行える。